

負けもんが 中小企業物語

▶▶⑦

全国から引っぱりだこの「ダチヨウマスク」。

「人を救う本物のマスクを作ってる」

退職。シャンプーの開発を手掛けるなど入社から二十三年、化学一筋。商社では限られていた研究開発に没頭できる会社を起すと言いつ出した。

そのころ、大阪府立大

ウは本当に強かった。け

二人はさっそく、実証

動き、さえずり続けた。

出合いは、壁を木っ端み

化学品部長の辻さんは、社内で「居場所をなくしていった」からだ。

閉塞感の中で、辻さんが選んだ人生の一手は、

効果も薄く、売れなかつた。社員三人に給料を払うと赤字になった。

仮説を吹聴した。

そんな研究が〇六年、

実験を行った。辻さんは

電話が鳴りやまない。

幸運な出合いはある

飯塚市のマスク製造販売「クロシード」社長の辻政和さん(左)と、獣医師康浩さん(右)が共同開発した。「変わり者」と呼ばれる二人の出会いは、必然だったかのようだ。

二〇〇三年、自動車の輸出が引っぱり、日本の景気が上向いていくに連れ、辻さんはしょんぼりした。勤め先の東京の商社が、自動車部品の取り扱いを増やし、主力だった化学品の投資を急減。

退職金をつぎ込んでマスク製造会社をつくるのだという。新型インフル

の講師だった塚本さん

ンピンしていたこともあ



「出合いが行き詰まった道を切り開いた」と語る辻さん(右)とダチヨウの研究をまとめた本を手にする塚本さん

「お父さん変よ。卒業がら、異端。」

は、資金の壁が立ちほだかる。だが幸運な人との出合いは、壁を木っ端み